

美園トーク スタジオ

ONLINE

'22-23
season

《意見交換成果とりまとめ》

まちづくり意見交換会「美園トークスタジオ'22-23season」実施概要

- 日時：2023年2月25日(土) 10:00~11:50
- 開催方法：オンライン (Zoom)
- 主催：美園タウンマネジメント協会、みその都市デザイン協議会
- 企画運営：(一社)美園タウンマネジメント、さいたま市 (未来都市推進部、浦和東部まちづくり事務所)



現況・問題点等

自家用車依存度の高い状況について

- 定点観測アンケート（明治大学松浦研実施）からすると、自転車利用はむしろ減っている印象。
- 幹線道路ネットワーク構成や道路幅員など、道路基盤は自動車利便性を高める方向で進展。
- クルマの利便性が圧倒的：子供の送迎、ちょっと離れた店舗等施設アクセスetc.
※徒歩：距離がある場合等に行きづらい。
※自転車：天候に左右される。乳児は子乗せできない。
- 地区計画による規制誘導：建築計画を工夫すれば戸建住宅でも乗用車2台駐車可能な最低敷地面積。
- 広幅員道路や大小パブリックスペースは、「非日常(サッカー開催時)」においては、使い勝手の良いインフラとして機能している。
※ただし「日常」は、(朝夕の通勤ラッシュ時を除いて)閑散としている。
- 長年の都市環境づくりにより、「クルマが使いやすい」がまちの「売り」になっている現状。

クルマ依存解消に向けた「行動変容」の実現性

- 「一人ひとりができること」を考えていく際に、個々の自己最適化が優先されると、結局クルマ利用は更に増える方向になる。
- 「地域の共通利益のため」という視点は持てるか？
- 「できる限りクルマ利用は控えましょう」というマネジメント施策にも限界がある。
※何をどう言われようとも、今は結局クルマ利用の方が圧倒的に「得」が多いから。

今後の取組方向性等

自家用車依存解消に向けたアプローチ

- トップダウン的施策：車線数を減らす物理的強制策等。
- ボトムアップ的施策：インフルエンサー施策等。(例) 自転車利用がかっこいいライフスタイルとしてPR普及
※「一人ひとりができること」は、「押し並べて全員」という考え方ではない。
- 結局は両方必要。

現実的に打てる施策

- 中心市街地駅周辺に比したら混雑していない状況を踏まえると、クルマ利用が第一選択肢となってしまう傾向はやむを得ない。
- クルマ利用選好を与条件として、低環境負荷車を優先する等の施策が現実的では？
- オンデマンド交通サービス等実証は、第二第三の選択肢としてバス等を補完する需要を集約した場合に地区内サービスとして事業成立するかの検証側面あり。

変化を見込んだ先行策

- 特定の交差点の渋滞慢性化や、駅周辺駐車台数不足(常に満車)等、徐々に交通状況も変化しており、その対応として個別行動選択にてクルマから他交通手段への行動変容は起こり得る。
※道路混雑等が進むと、自ずと自転車利用等に転換する行動選択も増える?!
- 早期から自転車利便性向上施策を仕込んでおく等。

現況・問題点等

今ある公共空間等の評価

- 今ある空間をいかに有効活用するかが重要。
- 小学校の校庭・体育館等を地域住民が広く使いやすい状況にない。
- 既存空間を活用したイベントの開催頻度が上がっていない。
- 美園は公園が多いが、住民の憩いの場になっているのかは疑問。
- 公園を身近に感じてもらう必要がある。住民同士のコミュニケーションの場になるべき。

論点：公共空間の「使い方」

- 施設・空間ごとに相談先等が異なるのは、住民（利用者）からすると煩わしい。
- 健康器具のある公園が多く、Webでまとめて発信しているが、「どのように使う器具なのかも同時に発信する必要がある」と先日知人に言われた。
- 公共空間を使って「何をしてOK」なのかが不明瞭。
(例) 公園には禁止事項看板はあるが、簡易テント・レジャーシート等を置いても問題無いか等。
※公園の芝生に簡易テント等置いている人を見かけることもあるが、その人もOK/NGが不明瞭なまま使っているのでは？
- 夏になると「美園で花火ができる場所はないか」という問い合わせが増える。
※自身の幼少期に日常的にやっていたことを自分の子どもにも体験させたいニーズ有。

今後の取組方向性等

やって良い事の発信

- 公共空間内の「禁止看板」ではなく「できること看板」の設置。
- 公園でできる事・やって良い事を発信することで、公共空間を身近に感じてもらう。
(イメージ) 浦和美園4丁目公園では「簡易テント設置可、ただし5基までが目安」等。

- 勝手には発信できないので、管理者等と相談しながら進める。管理者側で発信しづらい内容は、地元側で発信していく等連携。

集客上必要な「駐車場」

- 大門上池調節池広場について、イベント開催しやすいように駐車場を設ける。
- まちづくり理念としては、公共交通利用を促進したい。ただ、集客に駐車場が必要なのも事実。
- 同広場面積を生かし、駐車スペースを設けながら開催したり、埼玉公園との一体利用により大規模なイベントが開催可能。

健康器具マップ

- 健康器具マップ（使い方案を含む）の作成。

利用予約しやすさ改善

- 各種公共施設、公共空間の予約等を一元化するプラットフォームの構築。

手持ち花火イベント

- 池広場などの公共空間で手持ち花火大会のイベントを開催。手持ち花火を気軽にできる場がないので、子育て世代の多い美園でやれば人気出そう。

- 花火は、近隣店舗等から協賛で提供してもらえるのでは？

- 手ぶらで来て、ゴミ処理してもらえるならお金払ってでも参加したい親子は多いだろう。協賛と参加費で運営賄えるのでは？

- まずは実験的に小規模にやってみて、ノウハウを蓄積して規模拡大していくのが良い。

※人数調整により「スポーツ・健康増進」と同じ班にて当日意見交換を実施。

現況・問題点等

実証中のスポーツアプリについて

- スポーツに取り組む小学生・保護者・指導者を対象とした、ケガの予防に資するアプリケーションを開発中。
※開発前の実証を終え、3月中の一般向け公開を予定。

今後の課題等

- アプリ運用の継続性。
- パーソナルデータの提供に対する受容性。
- 対象年代の子どもによるアプリ入力の手間（継続性）。
- 既にヘルスケアアプリが複数ある中での差別化。
- 利用者増による付加価値等のメリットの具体化。

今後の取組方向性等

改善アイデア等

- アプリ継続利用に応じて、病院・クリニック等の地域施設のクーポン等を付与。

※人数調整により「公共空間活用」と同じ班にて当日意見交換を実施。

現況・問題点等

現況・問題点等

- ふらっと遊びに行ける児童センター等が無く、他地区の施設に行かざるを得ない。
- 転入してきたばかりで、まだ地域でのリアルなつながりが少ない。
※公園に行ってもまだ子どもが小さく、ベビーカーに乗せているだけでは、新たな交流は生まれない。
- コロナ禍でイベント等が減る中、例えば子どもが同じ年代の同世代の家族と知り合えない。
- 子どもと高齢者との交流がない。多世代交流できていない。
※コロナ禍もあり、親戚以外の大人と接する機会が少ない。
- オンラインで知り合ってからリアルに会うのには、今はもうあまり抵抗がない。
- SNS等での情報発信が主流な中、SNSを使ってない方々に情報が伝わりにくい。
- 子育ての終わったシニア世代も結構いる。この方々にどう情報を伝えるか？

まちの現状評価（子育て+α）

- インフラが整っており、まちなかに子どもが多い。まちの発展を見込んで転居してきた。
- 駅前には段差が無く、歩道も広く、仮に将来車椅子利用になっても安心。
- 都内へのアクセスが良く、通勤通学に便利。拠点として住み続けやすい。
- 土地区画整理事業等により、歩行ネットワークの拡充期待。
- 「美園人」等キャッチを作ってブランディングしている。市の中でも少し違うイメージ。
- 都内等に比したら家賃も安く、東京都心まで座って通える。
※敢えて言うならSR運賃が高いくらい。
- 羽田空港へのアクセス性向上すると良い。
- 住みやすいため、賃貸でも転出するメリット少ない。

今後の取組方向性等

支援施設等の在り方

- 児童センター等は子ども対象が基本で、多世代交流はイベント開催時等に限定される。コミセンや小学校に機能付帯させる方が良いのでは？
※海外ではプレスクールが地域施設に付帯した事例等あり。
- 「ここにすれば何とかなる」という場が重要。

イベント等開催方法

- 0歳児だけ等敢えて対象絞るイベントにより、交流が生まれやすくなるのでは？
- 習い事感覚で「毎週〇曜△時」のように定例化していると参加しやすい。
- コロナ禍でも、オンラインとリアルハイブリッド開催により、もっと参加しやすくすると良い。

取組の発信・周知

- 下町等では、立て看板を活用している例もある。
- シニア向け講座の周知では、JA支店や公民館での掲示を活用した。
- 「子育てシェア」はもっと発信すべき。ニーズはもっとあるはず。転入の時から知っていたかった。
※顔見知り同士で使うサービスのため、まずは知り合う場づくりを進め、主として口コミでの展開を進めてきた影響も。
- 駅前口では見かけないが、大門地区・野田地区等では自治会掲示板も多い。
※個別交渉は困難だろうから、組織や行政等から依頼が良い？
- 「子育てシェア」は、転入手続きの際に告知チラシ等案内があれば良かった。
※出産等の安心材料の一つにもなる。